



平成 26 年 1 月 29 日
東 京 大 学

平成 28 年度推薦入試について（予告）

本学では、学部教育の総合的改革の一環として、多様な学生構成の実現と学部教育の更なる活性化を目指し、平成 28 年度入学者選抜から、現在の後期日程試験に替えて推薦入試を導入することを決定し、その基本的な枠組みについては、平成 25 年 3 月に公表しているところです。

（平成 25 年 3 月 15 日「東京大学の学部入試方法の変更について」
http://www.u-tokyo.ac.jp/stu03/e01_25.html）

この度、本推薦入試について、平成 28 年度入学者選抜に係る出願資格や推薦要件、選抜方法等、制度の概要を別紙のとおり決定したので、お知らせいたします。

【お問い合わせ先】

本件に関するお問い合わせについては、下記メールアドレス宛にご連絡ください。お問合せの内容を取りまとめ、平成 26 年 4 月以降、回答を本学 Web サイト (http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html) に掲載させていただきます。

本部入試課

メールアドレス：nyuusi3@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

平成２８年度推薦入試について (予告)

※ この資料は、東京大学が実施する平成２８年度推薦入試の概要を紹介するものです。
出願に当たっては、平成２７年７月頃公表する募集要項を必ず参照してください。

東京大学推薦入試のアドミッション・ポリシー

東京大学の使命と教育理念

1877年に創立された我が国最初の国立大学である東京大学は、国内外の様々な分野で指導的役割を果たしうる「世界的視野をもった市民的エリート」（東京大学憲章）を育成することが、社会から負託された自らの使命であると考えています。このような使命のもとで本学が目指すのは、自国の歴史や文化に深い理解を示すとともに、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識を基盤に、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、市民としての公共的な責任を引き受けながら、強靱な開拓者精神を発揮して、自ら考え、行動できる人材の育成です。

そのため、東京大学に入学する学生は、健全な倫理観と責任感、主体性と行動力を持っていることが期待され、前期課程における教養教育（リベラル・アーツ教育）から可能な限り多くを学び、広範で深い教養とさらに豊かな人間性を培うことが要求されます。この教養教育において、どの専門分野でも必要とされる基礎的な知識と学術的な方法が身につくとともに、自分の進むべき専門分野が何であるのかを見極める力が養われるはずです。本学のカリキュラムは、このように幅広く分厚い教養教育を基盤とし、その基盤と有機的に結びついた各学部・学科での多様な専門教育へと展開されており、そのいずれもが大学院や研究所などで行われている世界最先端の研究へとつながっています。

期待する学生像

東京大学は、このような教育理念に共鳴し、強い意欲を持って学ぼうとする志の高い皆さんを、日本のみならず世界の各地から積極的に受け入れたいと考えています。東京大学が求めているのは、本学の教育研究環境を積極的に最大限活用して、自ら主体的に学び、各分野で創造的役割を果たす人間へと成長していこうとする意志を持った学生です。何よりもまず大切なのは、上に述べたような本学の使命や教育理念への共感と、本学における学びに対する旺盛な興味や関心、そして、その学びを通じた人間的成長への強い意欲です。そうした意味で、入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追究するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人を東京大学は歓迎します。

推薦入試の基本方針

東京大学の推薦入試は、学部学生の多様性を促進し、それによって学部教育の更なる活性化を図ることに主眼を置いて実施します。実施に当たっては、日本の中等教育における先進的取組を積極的に評価し、高等学校等の生徒の潜在的多様性を掘り起こすという観点から、日本の高等学校等との連携を重視します。

推薦入試による選抜に当たっては、本学の総合的な教育課程に適応しうる学力を有しつつ、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、もしくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。東京大学は、推薦入試で入学した学生が、東京大学、ひいてはグローバル社会の活力の源として活躍することを期待しています。

1. 出願資格

次のいずれかに該当する者とします。

- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者
- ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成28年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者及び平成28年3月31日までに修了見込みの者

2. 募集人員

平成28年度推薦入試において、入学を許可する学生の募集人員は、100人です。

なお、各学部等の大まかな募集人員は、以下のとおりです。また、合格者が募集人員に満たない場合には、原則として、残余の募集人員は前期日程試験の募集人員に繰り入れます。

法学部	10人程度	経済学部	10人程度
文学部	10人程度	教育学部	5人程度
教養学部	5人程度	工学部	30人程度
理学部	10人程度	農学部	10人程度
薬学部	5人程度		
医学部	5人程度	(うち、医学科3人程度、健康総合科学科2人程度)	

3. 推薦要件等

学校長が本学に推薦できる人数は、以下の要件のすべてに該当する男女各1人、合計2人までとします。なお、同一の志願者を複数の学部推薦することはできません。

※男女いずれかのみしか在籍しない学校においては、推薦できる人数は1人となります。

- 別添の学部ごとに定める推薦要件に該当し、当該学部の学問分野に対する強い関心及びこれを本学で学ぶ積極的な意欲を持ち、学校長が責任をもって推薦できる者
- 合格した場合、必ず入学することを確約できる者
- 平成28年度大学入試センター試験のうち、本学が定める教科・科目のすべてを受験する者

4. 入学者選抜方法

合否判定は、出願書類の内容、面接等の審査結果及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価して行います。

- ① 出願書類の内容により第1次選考を行い、第1次選考合格者に対して学部ごとに面接等の第2次選考を実施します。面接等の実施方法の詳細については、別添を参照してください。
- ② 出願書類の内容と面接等の審査結果及び大学入試センター試験の成績を総合的に評価した上で、最終合格者を決定します。

大学入試センター試験は、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判断する観点から、概ね8割以上の得点であることを目安とします。

5. 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目

志願者は、平成28年度大学入試センター試験のうち、志望する学部が指定する教科・科目のすべてを受験してください。指定された教科・科目を1つでも受験していない場合は、合格者にはなりません。また、教育学部及び教養学部については、以下（1）、（2）のいずれで受験をしても構いません。

（1）法学部、経済学部、文学部、教育学部、教養学部

（5教科8科目又は6教科8科目）

教科	科目	科目選択の方法
国語	『国語』	必須
地理歴史	「世界史 B」 「日本史 B」 「地理 B」	左の4科目のうちから2科目を選択
公民	『倫理、政治・経済』	
数 学	『数学Ⅰ・数学A』	必須
	『数学Ⅱ・数学B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	左の3科目のうちから1科目を選択 ただし、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した（見込み）者だけです。
理 科	「物理基礎」（「物理」） 「化学基礎」（「化学」） 「生物基礎」（「生物」） 「地学基礎」（「地学」）	左の基礎を付した4科目のうちから2科目を選択 ただし、「基礎を付していない科目」を2科目選択した場合には、「基礎を付した科目」を選択したものとみなします。
外国語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左の5科目のうちから1科目を選択 なお、『英語』についてはリスニングの成績を含むものとし、筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計得点（250点満点）を200点満点に換算して利用します。

(2) 工学部、理学部、農学部、薬学部、医学部、教育学部、教養学部

(5 教科 7 科目)

教 科	科 目	科目選択の方法
国 語	『国語』	必須
地 理 歴 史	「世界史 B」 「日本史 B」 「地理 B」	左の 4 科目のうちから 1 科目を選択
公 民	『倫理、政治・経済』	
数 学	『数学 I ・数学 A』	必須
	『数学 II ・数学 B』 『簿記・会計』 『情報関係基礎』	左の 3 科目のうちから 1 科目を選択 ただし、『簿記・会計』、『情報関係基礎』を選択できる者は、高等学校又は中等教育学校においてこれらの科目を履修した（見込み）者だけです。
理 科	「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	左の 4 科目うちから 2 科目を選択
外 国 語	『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』	左の 5 科目のうちから 1 科目を選択 なお、『英語』についてはリスニングの成績を含むものとし、筆記（200 点満点）とリスニング（50 点満点）の合計得点（250 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

6. 提出書類

出願に当たっては、以下の書類を取りまとめ、学校長から提出していただくことを予定しています。なお、各書類において求める志願者の学習成果等については、原則として、高等学校等在学中のものとしします。

- ・ 入学志願票
- ・ 調査書（文部科学省が「大学入学者選抜実施要項」で定めるもの）
- ・ 志願理由書（各学部の指定する様式による）
- ・ 学校長からの推薦書（各学部の指定する様式による）
- ・ 学習状況調査票（各学部の指定する様式による）
- ・ その他、各学部が求める書類

7. 入学後の学修

推薦入試による入学者は、入学後、文科一類・文科二類・文科三類・理科一類・理科二類・理科三類の6つの科類のうち、志望学部が個別に指定する科類に分かれ、教養学部所属して前期課程の学修を行います。前期課程修了後は、出願時に志望した学部等へ進学します。

前期課程においては、推薦入試による入学者について、学生の志望分野に対する関心や学ぶ意欲にきめ細かく応えることが可能となるよう、早期に専門教育に触れる機会の提供や、学修について個別に助言・支援する教員の配置などの措置を講じます。

【各学部が主に対応する科類】

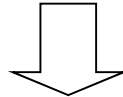
法学部	・・・	文科一類
経済学部	・・・	文科二類
文学部	・・・	文科三類
教育学部	・・・	文科三類又は理科一・二類
教養学部	・・・	文科三類又は文科一・二類、理科一類又は理科二類
工学部	・・・	理科一類又は理科二類
理学部	・・・	理科一類又は理科二類
農学部	・・・	理科二類又は理科一類
薬学部	・・・	理科二類又は理科一類
医学部医学科	・・・	理科三類
医学部健康総合科学科	・・・	理科二類

平成28年度推薦入試の流れ（予定）

平成27年

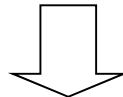
7月

入学者選抜要項、募集要項の公表



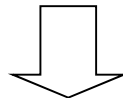
11月上旬

入学願書受付（1週間程度）



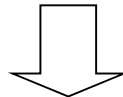
11月中旬

書類審査の実施



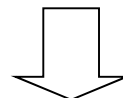
11月下旬

第1次選考合格者の発表



12月中旬

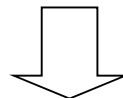
面接等の実施



平成28年

1月

大学入試センター試験



2月

最終合格者の発表

各学部の推薦要件・面接方法等の概要

学部名	法学部
募集人員	10人程度
求める学生像	現代社会、とりわけグローバルな場でリーダーシップを発揮する素質を持つ学生。すなわち、優れた基礎的学力を備えるとともに、現代社会のかかえる諸問題に強い関心を持ち、実社会の様々な事象から解決すべき課題を設定する能力、さらには他者との対話を通じて、その課題の解決に主体的に貢献する能力を有する学生。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の履修上の措置	グローバルな場で活躍するために基礎となる幅広い視野をそなえ、法的思考と政治学的識見の基礎を身に付けた人材の養成をめざす教育を行います。 本入試で入学した学生に対しては、学生の関心に応じて発展的内容の学習を可能にするため、前期課程において法学部専門科目の受講を許可し、後期課程において大学院（法学政治学研究科）の授業科目の受講を許可します。また、履修について個別的に助言・支援する教員を配置します。
推薦要件	以下のすべてに該当する者とします。 (1) 学業成績に秀でていること。（各校の上位概ね5%以内） (2) 現実の中から本質的な問題を発見し、独創的な形で課題を設定する能力を有すること。 (3) 問題の解決に向けてイニシアティブを発揮できること。 (4) 異なる文化的背景や価値観を有する他者とのコミュニケーション能力に優れていること。
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、志願者が本学部の推薦要件に合致することを具体的に証明する資料。例えば、 (1) 在学中に執筆した論文で、志願者の問題発見能力・課題設定能力を証明するもの (2) 社会に貢献する活動の内容を具体的に証明する資料（表彰状、新聞記事等） (3) 留学経験など、志願者が異なる文化的背景や価値観への理解を有することを示す資料（留学の事実を証明する資料、外国人との交流や支援活動を行ったことを示す第三者の推薦状など） (4) 国際通用性のある入学資格試験における優秀な成績を証明する資料（国際バカロレア、SAT など） (5) 外国語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSK など） などです。
面接等の方法	グループ・ディスカッション及び個別面接を行います。

学部名	経済学部
募集人員	10人程度
求める学生像	いずれかの分野において卓越した能力を有し、その才能を生かして全く新しいビジネスまたは社会の枠組みを創造しようとする高い志を持つ学生。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	個の才能を生かすために必要な、経済社会の複雑な諸現象を体系的に理解する能力を養成します。前期課程において、必要に応じて学部教員による相談や本郷での講義・演習の受講を許可します。
推薦要件	以下のすべてに該当する者とします。 (1) いずれかの分野で高等学校等の生徒として飛びぬけた才能を有すること。(必ずしも学術分野に限らないが、上の「求める学生像」にふさわしい能力であること) (2) 他者との対話性に優れ、経済分野に強い関心を有すること。 (3) 高等学校等において英語、数学、地理歴史・公民のうちいずれかの2教科において成績が優秀であること。(地理歴史・公民はいずれかの1科目のみを対象とする。)
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件の(1)に該当すると判断できる客観的根拠を示す書類の提出を求めます。例えば、 (1) 数学オリンピックなどの科学オリンピックで顕著な成績をあげたことを示すもの (2) 英語その他の外国語に関する語学力の試験（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSK など）において高得点を取ったこと示すもの (3) 全国レベルの大会・コンクールでの入賞記録 (4) 留学を含む様々な国際的活動で、その内容が第三者によって高く評価されたものについて、その詳細や評価内容を記した文書（新聞記事など） などです。 ※上記(1)～(4)の書類と併せて、本人が執筆した特に優れた論説や論文などを添付することも可能です。
面接等の方法	個別面接を行います。

学部名	文学部
募集人員	10人程度
求める学生像	人間のさまざまな精神的営み（言語・文学・思想・芸術等）や、人間の織りなす社会の歴史と現代の諸問題に関する探究心に富み、自らの考えたことを口頭発表や論文などを通して他者に伝える能力を有し、将来、社会的な貢献が期待できる学生。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	入学当初の高い勉学意欲と人間・社会に対する関心を維持し、より高度な専門的知識に裏付けられた研究へとつなげるために、適切な導入教育と面談指導を行うとともに、前期課程から必要に応じて文学部の講義・演習の受講を認めます。
推薦要件	以下のすべてに該当する者としします。 (1) 学業成績に秀でていること。 (2) 人文社会系諸学に関連する分野において、卓越した能力を有することを示す実績があること、あるいは課外活動やボランティアなどの社会貢献活動において、何らかの賞を受けるなど優れた成果をあげたこと。
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す書類の提出を求めます。例えば、 (1) 在学中に執筆した論文・発表資料または「総合的な学習の時間」による成果 (2) 外国語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSK など） (3) 何らかの賞を受けた場合は、それを証明する資料 (4) 課外活動、ボランティアなどの社会貢献活動での成果を示す資料 などです。
面接等の方法	面接は、志願者が自らの学習・研究活動または社会貢献活動の内容に関して10分程度のプレゼンテーションを行い、それについて、面接教員との質疑応答を行います。あわせて小論文を課します。

学部名	教育学部
募集人員	5人程度
求める学生像	自ら設定した課題を探究する卓越した資質・能力を有する学生。 これまでに取り組んだ探究学習は特に教育分野に限定しないが、なぜ教育学部を志望するのかについて明確な考えをもっていることを求めます。
推薦入試入学者に対する カリキュラム・ポリシー 及び入学後の措置	発達・教育に関する諸現象についての理解を深め、研究する能力を身に付けるため、前期課程から、教育学部教員が開講する一般教養科目および専門科目を優先的に受講できるものとします。また、履修について個別に助言・支援するアドバイザー教員を配置します。
推薦要件	以下(1)、(2)ともに該当する者としてします。 (1) 本学のカリキュラム修得に必要な、教科の基礎学力があること。 (2) 探究学習の卓越した実績・能力を、論文、作品、発表等を通じて示すことができること。
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当することを示す客観的根拠となる以下の書類の提出を求めます。 (1) 在学中に作成した論文、作品、発表の内容を示す資料等で、志願者の卓越した探究能力を示すもの。 (2) 上記(1)に関して、国際的もしくは全国的なコンクールやコンテストでの受賞歴、あるいは、学会の高校生セッション等での発表経験などがあれば、それを証明する資料を添付してください。 その他、参考資料として、探求能力もしくは教育への意欲・関心を示すような資料があれば添付してください。
面接等の方法	個別に面接（発表や課題遂行を含む）を行い、総合的に審査します。

学部名	教養学部
募集人員	5 人程度
求める学生像	文系理系にかかわらず、複数の学問分野を横断する関心や新しい分野に挑戦する意欲をもち、将来にわたって、グローバル時代における諸問題の解決を目指す高い志をもつ学生。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	多様な世界への好奇心を絶やさず、グローバル化が進む現代の諸課題に取り組む能力をそなえた学生を育成します。 (1) 1 年次からの外国留学を奨励し、さまざまな支援を行ないます。 (2) 教養学部後期課程の科目について、教員の助言に基づいて、前期課程での早期受講を認めます。 (3) 履修について助言・支援する教員を、入学者の志望分野に合わせて個別に配置します。
推薦要件	以下のすべてに該当する者とします。 (1) 自ら課題を発見して探究する卓越した能力をもつ者。 (2) 2 つ以上の科目（志望分野に関連する科目を含む）で卓越した能力をもつ者。 (3) すぐれた外国語能力を有する、もしくは国際的なプログラムや活動について経験や関心を有する者。
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠として、以下のいずれかの書類（複数可）の提出を求めます。 (1) 在学中に執筆した課題論文等 (2) 科学オリンピックなど志望分野にかかわる各種コンテストの成績 (3) 外国語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS、TestDaF、DALF、HSK など） (4) 国際通用性のある入学資格試験の成績を証明する資料（国際バカロレア、SAT など） (5) その他、特筆すべき活動の成果
面接等の方法	面接による審査を行います。また、必要に応じて、外国語（英・独・仏・中・韓・露・西・伊）の面接を含むことがあります。

学部名	工学部
募集人員	30人程度
求める学生像	社会の多様な問題を科学的なアプローチで解決することに興味を持ち、 (1) 自ら問題設定を行い、柔軟な思考ができる能力 (2) 興味を持つ分野の学習のみならず、問題解決に関連する幅広い分野の学習を自律的に行うことができる能力 (3) 異なる思考様式や文化的背景を持つ人々とのコミュニケーション能力 を有し、専門知識を駆使して、社会の様々な課題の解決に主体的に貢献することが期待できる素質を有する学生。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	東京大学工学部は、豊かな教養、国際性、科学技術に対する体系的な知識を身につけ、研究、開発、設計、生産、計画、経営、政策提案等において、工学的手法を活用して人類社会の持続と発展に貢献できる指導的人材を養成することを目的としています。 前期課程においては、学生の志望分野につながる5つ程度の学習領域^{*1}から1領域を選択して、基礎的学習を行います。大学での学習を通じて工学の多様性を俯瞰し、自らが志望する分野の概要とこれを学ぶ意義を深く理解し、必要となる基礎学力を身につけることができるよう、領域ごとに学習について個別に助言・支援する教員を配置します。また後期課程ならびに大学院につながる、工学専門教育を早期に受ける機会を設けます。 *1 学習領域の例 (1) 情報 数学 システム, (2) 電気 機械 物理, (3) 物理 材料, (4) 化学 生物 材料, (5) 建築 社会技術
推薦要件	高等学校等の学習内容について十分な基礎学力を有しており、以下に示す資質を有することを示す、あるいはこのような資質の涵養に資する特色ある活動^{*2}を経験している者とします。 (1) 自ら問題設定を行い、かつ柔軟な思考ができること (2) 社会の多様な問題に対して関心をもち、それを科学的なアプローチで解決することに興味を持つこと (3) 問題意識に基づき、専門分野の学習のみならず、問題解決に関連する幅広い分野の学習を自律的に行えること (4) 異なる思考様式や文化的背景を持つ人々と協力して作業を行うことができる、外国語能力を含めた総合的なコミュニケーション能力を有すること

	*2 活動の例 在学中に志願者が主導的な役割を果たしたことにより顕著な成果を挙げた活動（社会問題解決に取り組んだ社会貢献活動・国際的活動、部活動等）、全国レベルの大会・コンクールでの入賞につながった活動、特色ある高度な研究活動・創造活動、顕著な成績をあげた数学・物理・化学・生物オリンピックなどでの活動等
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、志願者が本学部の推薦基準に合致することを具体的に証明する以下すべての資料 (1) 志願者が高等学校等在学中に行った特色ある活動の詳細をよく知る人物（高等学校等の内外を問わない）による推薦書 (2) あらかじめ工学部が提示する特定の課題に対する小論文 (3) 高等学校等在学中に行った自らの特色ある活動でどのような問題設定と解決を行ったか、その活動を通じていかなる自律的学習を行ったか、また将来的にどのように社会に貢献したいと考えているかを説明し、あわせて志望動機を述べた文章 (4) 高等学校等在学中に行った活動が上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す書類とその活動内容を説明する資料 ※英語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS など）があれば添付してください。
面接等の方法	提出書類の内容の妥当性、コミュニケーション能力等を面接等により評価します。

学部名	理学部
募集人員	10人程度
求める学生像	自然科学において卓越した能力を有する学生を求めます。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	自然科学への関心と知的冒険心を育み、未知の問題に対する解決の知恵と手段を体得して人類社会の持続的・平和的发展に貢献できる、創造力と表現力を備えたグローバルリーダーを育成します。 推薦入試入学者向けに各学科の教員が専門科目の早期学習や研究分野選択に向けた個別指導を行います。また早期から希望研究室で最先端研究の現場に参加できる機会として、学部前期課程に研究室実習制度を設けます。 学部前期課程2年次には、理学部が学内で開催する国際プログラムへの参加を認めます。また後期課程では国際派遣プログラムに優先枠を設けるなど、国際体験を奨励します。
推薦要件	自然科学に強い関心を持ち、自然科学の一つもしくは複数の分野において、卓越した能力を有することを示す明確な実績があること。(実績の例：科学オリンピック(数学、物理、化学、生物学、地学、情報)、高校生科学技術チャレンジ、日本学生科学賞など、国内外で開催された各種コンテストの上位入賞者、商品レベルのソフトウェア開発経験者など) 国際活動、社会貢献活動、芸術・文化、スポーツなどでの意欲的な活動やリーダーシップを発揮した実績も評価に加味します。(実績の例：在任中に顕著な活動を行った生徒会会長、全国大会レベルでの入賞を果たした部やクラブで主導的な役割を果たしたものなど)
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す書類のうち、少なくとも1つ(複数提出可)の提出を求めます。(例えば、表彰状/認定証のコピー、受賞論文、開発したソフトウェアの概要資料など) ※英語に関する語学力の証明書(TOEFL、英検、IELTSなど)があれば添付してください。
面接等の方法	個別面接を行います。各学科で要求される基礎学力や思考力、コミュニケーション能力を問います。

学部名	農学部
募集人員	10人程度
求める学生像	動物・植物・微生物がもつ多様な機能に興味をもち、それらを深く究明し、さらにそれらを応用して社会に役立てたいという強い意欲を有する学生。すなわち、自ら主体的に学ぶ姿勢をもち、生命に対する理解をもとに、食料・生物資源・生態系等に関わる諸問題の解決にグローバルな視点から貢献しようとする学生。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	農学を構成する基礎・応用諸科学に関する専門教育を段階的・体系的に行い、農学に課せられた諸問題の解決に必要な高度の専門知識と幅広い視野を有し、社会の要請に応えることのできる人材を育成することを目的とします。 前期課程においては農学部の附属施設等を利用した早期実践教育プログラムを提供し、後期課程においては大学院授業科目の受講を可能とします。加えて、学修について個別に助言する教員を配置し、前期課程・後期課程を通して一貫した教育支援を行ないます。
推薦要件	以下のすべてに該当する者とします。 (1) 高い基礎学力を有する成績上位者であること。 (2) 生物学あるいは農学に関連する特記すべき推薦事由を有すること。 (3) 高等学校等において「生物」を履修していること。
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の書類のうち、少なくとも1つ（複数提出可）の提出を求めます。なお、提出に当たっては、その概要の説明書を求めます。 (1) 生物学に関する研究成果あるいは論文 (2) 生物学や農学に関連する活動実績等の資料 (3) 日本生物学オリンピック、国際生物学オリンピック参加者はその成績 ※英語に関する語学力の証明書（TOEFL、英検、IELTS など）があれば添付してください。
面接等の方法	提出書類の内容の妥当性、コミュニケーション能力等を面接により評価します。 面接の一部として、課題を設定して生物学の能力を評価します。

学部名	薬学部
募集人員	5 人程度
求める学生像	最先端の薬学研究を将来大学院で学び、国際的研究者となる意思のある人材、薬剤師として医療高度化を推進する意思のある人材を求めます。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	化学・生物・物理・医療を含む幅広い薬学分野におけるキャリアの方向性を早期に明確化させるために、以下のプログラムを受講させます。 (1) 薬学部の研究室において、前期課程から3年次の夏季休業期間での1ヶ月程度の実習を受講します。 (2) 4年次に、大学院の授業の受講を認めます。
推薦要件	以下のすべてに該当する者とします。 (1) 学業成績に秀でていること。 (2) 優れた科学能力と英語力を有すること。 (3) 自発的に目的を設定して学ぶ能力を有すること。 (4) 自分の考えが論理的に伝えられるコミュニケーション能力・文章構成能力に優れていること。
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の書類のうち、少なくとも1つ（複数提出可）の提出を求めます。 (1) 科学オリンピックなど各種コンテストにおいて顕著な成績を挙げたことを証明する書類 (2) TOEFL iBT 100 点以上もしくは IELTS 7 点以上などに相当する高い英語力を証明する書類 (3) 留学経験を証明する資料および、それを今後の国際的な活躍にどのように活かすかを志願者が説明する文章 (4) 科学に関連する、学会・研究会での発表を証明する資料、もしくは作成した論文 ※上記(1)～(4)の書類の他、課外活動で科学分野以外に特筆すべき成果を示す資料(芸術、運動、ボランティアなど)を添付することも可能です。
面接等の方法	個別面接を行います。

学部名・学科名	医学部医学科
募集人員	3人程度
求める学生像	・生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する医学研究を推進するため、推薦入試枠を医学研究者養成枠と位置づけ、最先端の医学・生命科学研究を担う国際的研究者を育成するために活用します。 ・そのために、未知の生命現象の発見や革新的な医療につながる研究を長期的な視野のもとに実行する意欲と能力を持つ学生を受け入れ、サマープログラム等を活用した研究体験、学部進学後のPhD-MDコース(医学部在学中の大学院進学制度)への参加などを通じてリサーチマインドと研究能力を育成します。 ・また医学を学ぶにあたってはバランスのとれた人格と高い基礎学力が要求されるため、これらの点で基準を満たす学生を選抜します。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	在学中に生命現象のしくみの解明、疾病の克服および健康の増進に寄与する医学研究について幅広い知識と経験を身に付け、卒業後は最先端の医学・生命科学研究を担う国際的研究者へと発展する人材を育成します。 1. 教養学部前期課程在籍時： 以下の教育プログラムを提供します。 (1) 医学部が駒場キャンパスで提供する「メディカルバイオロジー入門コース」などの講義への参加。 (2) 本郷キャンパスにおける分子細胞生物学の教科書を利用した少人数教育への参加。 (3) 夏季休業期間等を利用した医学部研究室での実習。 2. 医学部医学科進学後： 以下の(1)のカリキュラムに3年生、4年生として参加し、その後に(2)のカリキュラムに参加することを原則とします。 (1) MD 研究者育成プログラム：2007年より開始した研究志向の学生を対象とした教育プログラム。通常医学科カリキュラムと並行して研究室での実験を行い、研究マインドを養成することを目的とします。海外短期留学、研究に必要な英語トレーニングなども実施。他大学との学生交流のための行事を開催。 (2) PhD-MD コース：医学部在学中に大学院に進学し、学位取得後に医学部に戻るコース。早期に本格的な研究体験を積むことを目的とします。本コース在学中は奨学金を支給します。
推薦要件	以下のすべてに該当する者とします。 (1) 高い基礎学力とバランスのとれた人格を持つこと。 (2) 生命科学・医学研究への意欲と能力を持つこと。 (3) 医学部進学後に研究者養成のための特別カリキュラムへの参加を望むこと。

	(4) 自然科学の領域においてきわめて高い能力を持つこと、あるいは非常に優れた語学力(英語力)とそれに伴う豊富な国際経験を持つこと。
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の書類のうち、いずれか1つ(複数提出可)の提出を求めます。 (1) 日本生物学オリンピック、国際生物学オリンピック、高校生科学技術チャレンジ、Intel International Science and Engineering Fair (Intel ISEF)、全国物理コンテスト、国際物理オリンピック、全国高等学校化学グランプリ、国際化学オリンピックなど各種コンテストにおいて顕著な成績を挙げたことを証明する書類 (2) きわめて高い語学力(英語力として TOEFL iBT 100 点以上、IELTS 7 点以上相当) 及び豊富な国際経験を示す書類
面接等の方法	高等学校等からの推薦書類に記載された能力や経験を確認するためのプレゼンテーションを行います。その内容及び能力の確認のための質疑応答などを行い、適性を判断します。 在学中には通常の医学科カリキュラムに加えて研究者育成のための特別プログラムに参加し、学業と研究活動を両立させる必要があります。この観点から、学力を判断するための大学入試センター試験の基準点は医学部医学科の場合には 780 点程度とします。

学部名・学科名	医学部健康総合科学科
募集人員	2人程度
求める学生像	・人の健康をさまざまな分析法で探求する「ヘルスサイエンス」の研究チームにおけるグローバルリーダーを育成するために、推薦入試枠を活用します。 ・科学的・分析的思考能力に加え、統合力、マネジメント力、コーディネート力、発信力を持つ人材を育成します。 ・そのために、人間を敬いいのちを尊ぶバランスのとれた人格で、健康関連事象に対する探究心をもつ学生を求めます。
推薦入試入学者に対するカリキュラム・ポリシー及び入学後の措置	医療保健分野におけるグローバルリーダーとなる人材を育成します。特に推薦入試入学者の個性的な知的探究心や行動力を伸ばすよう配慮するとともに、健康を守り高めるための生物学的・社会的諸原則を理解し、各種施策を開発する能力、保健・看護サービスを提供する能力を育成します。 1. 教養学部前期課程在籍時 (1) 理科二類に在籍し、一般学生と同様の科目を履修するとともに、健康総合科学科が駒場で開講している科目「生きることを支える科学—看護学の最先端」「ヘルスサイエンスへの招待」などへ参加します。 (2) 特例として、1年次より学科の教員（チューター）に、補習等に関する相談ができます。 (3) 夏季休業・秋季休業期間等を利用して研究室訪問・実習を行います。 2. 健康総合科学科進学後 (1) 長期休業を利用した、国内外におけるボランティア活動（医学部附属病院・介護老人保健施設など）、または、厚生労働省などのインターンシップに参加し、教員から助言を受けることができます。 (2) 関連領域を含めた大学院のプログラム（グローバルヘルスなど）に参加できます。 (3) 研究室が行っている研究課題に、3年次より参加できます。 (4) 当該学生が秀でている領域で、講義（シリーズ）を計画・実施できます。 (5) 卒業論文の作成・発表のみならず、学会に参加・発表を経験できます。
推薦要件	以下のすべてに該当する者とします。 (1) バランスのとれた人格であること。 (2) きわめて高い基礎学力を有すること。 (3) グローバルにコミュニケーションできる語学力（英語力）をもつこと。

	(4) チャレンジ精神に富み、忍耐力、柔軟性をもち、自己を高めることのできる精神力をもつこと。 (5) 自然科学領域におけるきわめて高い能力および科学的探究心をもつこと。 (6) チームの調整力があり、リーダーシップをもつこと。
学部が求める書類等	各学部共通に求める調査書等のほか、上記推薦要件に該当すると判断できる客観的根拠を示す以下の書類のうち、いずれか1つ（複数提出可）の提出を求めます。 (1) きわめて高い語学力を示す書類（英語力として TOEFL iBT 100 点以上、IELTS 7 点以上相当） (2) 高いチャレンジ精神を示す課外活動体験についての書類（数か月以上の国際ボランティアなど） (3) 日本生物学オリンピック、国際生物学オリンピックなど各種コンテストにおいて顕著な成績を挙げたことを証明する書類 (4) 高いリーダーシップ、チームの調整力を示す組織のリーダー的役割（生徒会長、文化祭運営委員長など）の経験を証明する書類
面接等の方法	高等学校等からの推薦書類に記載された能力や経験を確認するためのプレゼンテーションを行います。その内容および能力の確認のための質疑応答などを行い、適性を判断します。

平成28年度
京都大学特色入試
選抜要項 《概要》



平成26年3月26日
京 都 大 学

目 次

京都大学特色入試を始めるにあたって	1
1. 京都大学の基本理念	2
2. 京都大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	3
3. 京都大学特色入試の基本方針	4
4. 各学部が特色入試を通じて求める人物像	5
5. 募集人員・試験実施方式	7
6. 選抜日程	8
7. 出願資格、出願要件、提出書類、大学入試センター試験 利用教科・科目名、選抜方法及び基準	
総合人間学部	9
文学部	10
教育学部	11
法学部	12
経済学部	13
理学部	14
医学部医学科	15
医学部人間健康科学科	16
薬学部薬科学科	18
工学部地球工学科	19
工学部電気電子工学科	20
工学部情報学科	21
工学部工業化学科	22
農学部食料・環境経済学科	23

注：本選抜要項は現時点での予定であり、詳細については平成27年7月頃に公表する募集要項に記載します。

出願にあたっては、必ず募集要項で確認してください。

京都大学特色入試を始めるにあたって



大学は社会の各界から、「国際展開を担えるグローバル人材」の養成を要望されています。そのためには、幅広い豊かな教養力・俯瞰力、外国語運用力、優れた専門力を大学において三位一体的に育成する必要があります。その意味で、高等学校と大学との接続・連携を緊密なものとする「高大接続」型の入学者選抜は大変重要です。これは、大学における教養教育、外国語教育ならびに専門教育が高校教育の積み上げを前提としていることから明らかであり、研究型大学である本学が重視している「自ら課題を発見し、チャレンジする」という自発的・能動的な学びという点からも重要です。

本学では、このような高等学校における幅広い学びと接続した大学入試方法について検討してきました。高等学校における幅広い学習に裏付けられた総合力と学ぶ力及び高い志を評価し、個々の学部が定めたカリキュラムと教育コースを受けるにふさわしい学力と意欲を備えた者を選抜する「高大接続型京大方式特色入試」を、平成 28 年度入試より全学部で実施することにいたしました。この時期はちょうど高等学校新学習指導要領下で学んだ高校生等が大学を受験する年になります。

「魅力・実力・活力」ある大学を目指す本学にとって、「特色入試」を通じて、総合的な判断力と優れた専門力を有し、社会の各界で積極的に活動できる人材の育成に一層努める所存です。世界を牽引するグローバルリーダーを目標とする多くの志願者が集まってくれることを期待しています。

京都大学総長 松本 紘

1. 京都大学の基本理念

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な問題の解決に挑戦し、地域社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

研 究

1. 京都大学は、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造を行う。
2. 京都大学は、総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる。

教 育

3. 京都大学は、多様かつ調和のとれた教育体系のもと、対話を根幹として自学自習を促し、卓越した知の継承と創造的精神の涵養につとめる。
4. 京都大学は、教養が豊かで人間性が高く責任を重んじ、地球社会の調和ある共存に寄与する、優れた研究者と高度の専門能力をもつ人材を育成する。

社会との関係

5. 京都大学は、開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える。
6. 京都大学は、世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献する。

運 営

7. 京都大学は、学問の自由な発展に資するため、教育研究組織の自治を尊重するとともに、全学的な調和をめざす。
8. 京都大学は、環境に配慮し、人権を尊重した運営を行うとともに、社会的な説明責任に応える。

2. 京都大学入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

京都大学は、古都の文化を育んできた京都の地に創設された国立の総合大学として、社会の各方面で活躍する人材を数多く養成してきました。創立から1世紀以上を経た21世紀の今日も、建学以来の「自由の学風」と学術の伝統を大切にしながら、教育、研究活動をおこなっています。

京都大学は、教育に関する基本理念として「対話を根幹とした自学自習」を掲げています。京都大学の目指す教育は、学生が教員から高度の知識や技術を習得しつつ、同時に周囲の多くの人々とともに研鑽を積みながら、主体的に学問を深めることができるように教え育てることです。なぜなら、自らの努力で得た知見こそが、次の学術展開につながる大きな力となるからです。このため、京都大学は、学生諸君に、大学に集う教職員、学生、留学生など多くの人々との交流を通じて、自ら学び、自ら幅広く課題を探求し、解決への道を切り拓く能力を養うことを期待するとともに、その努力を強く支援します。このような方針のもと、優れた学知を継承し創造的な精神を養い育てる教育を実践するため、自ら積極的に取り組む主体性をもった人を求めています。

京都大学は、その高度で独創的な研究により世界によく知られています。そうした研究は共通して、多様な世界観・自然観・人間観に基づき、自由な発想から生まれたものであると同時に、学問の基礎を大切にする研究、ないし基礎そのものを極める研究であります。優れた研究は必ず確固たる基礎的学識の上に成り立っています。そのため、入学を希望する諸君に京都大学が望むのは、まずは高等学校までの各教科・科目をしっかりと習得しておくことです。そのようにして身につけられた基礎的な学力があってはじめて、入学者は、京都大学が理念として掲げる「自学自習」の教育を通じ、自らの自由な発想を生かしたより高度な勉強へと進むことが可能となります。

京都大学では、各学部がその理念と教育目的に応じ、入学者選抜試験における教科・科目を設定しており、明確な目的意識をもった人の入学を求めています。新たな勉強のために必要な基礎的学力を十分に備え、大学の学風と理念を理解して、意欲と主体性とをもって勉学に励むことのできる人を、京都大学は国内外から広く受け入れます。

3. 京都大学特色入試の基本方針

本特色入試では、高大接続と個々の学部教育を受ける基礎学力を重視し、

①高等学校での学修における行動と成果の判定、

②個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定

を行い、①と②の判定を併せて、志願者につき高等学校段階までに育成されている学力及び個々の学部教育を受けるにふさわしい能力並びに志を総合的に評価して選抜します。

①については、 高大接続を重んじるという観点から、高等学校での学修における行動や成果を丁寧に評価するため、「調査書」に加え高等学校長等の作成する「学業活動報告書」を提出していただきます。そこには、出願者の高等学校在学中の顕著な活動歴（例えば、数学オリンピックや国際科学オリンピック出場、各種大会における入賞、教育委員会賞、国際バカロレアディプロマコース・SAT・TOEFL・TOEIC・英検の成績など）を記していただき、志願者が受験科目以外にどういったことを学んできたか、どういった活動を実践してきたかを見ます。さらに、志願者が作成する「学びの設計書」をもとに、高等学校での活動内容から本学において何を学びたいのか、卒業後どういった仕事に就きたいのかといった、志願者自らの学ぶ意欲や志について書類審査を通じて評価します。

②については、 学部が定めたカリキュラムの内容を修得するのに必要とされる基礎学力や個々の学部における教育コースにとって望ましい能力を重んじるという観点から、書類審査に加えて、大学入試センター試験の成績、学部ごとの能力測定考査、論文試験、面接試験、口頭試問を組み合わせ実施します。

また、本特色入試は、文部科学省が定めた「大学入学者選抜実施要項」に準拠して構成しています。

(1) 「大学入学者選抜実施要項」でいうところの「推薦入試」は、「出身学校長の推薦に基づき、原則として学力検査を免除し、調査書を主な資料として判定する入試方法」であり、「推薦書・調査書だけでは入学志願者の能力・適性等の判定が困難な場合」に、各大学が実施する検査、大学入試センター試験の成績、資格・検定試験などの成績等を出願要件や合否判定に用いるとしています。本特色入試では、大学教育を受けるために必要な基礎学力を把握するために TOEFL-iBT や大学入試センター試験の成績、筆記検査、面接試験等を行います。

(2) アドミッション・オフィス入試とすることは、出身高等学校長等による出願者に係る評価を不要とすることではなく、調査書を補う学校長作成の「学業活動報告書」も書類審査の対象とします。このため、「学業活動報告書」の提出が必須となります。

(3) 出願の目安あるいは出願要件について、調査書の全体評定平均値として必要な数値を定め、「学業活動報告書」には全体の評定平均値に基づいた志願者の学年における順位について記載する欄を設けています。

(4) 大学入試センター試験の成績は、多くの場合、基礎学力を把握するために利用します。

4. 各学部が特色入試を通じて求める人物像

総合人間学部
総合人間学部は、異質な学問分野の接触と相互作用を基盤とした新たな「人間の学」の創出を目指しています。積み上げられてきた既成の学問の成果を生かしながら問題を発見し追究すること、問題の解決に向けて学問間の連携を図り新たな体系を創出することが、本学部の目的です。こうした意味での「総合」、「文理融合」の意義を理解し、これを積極的に進めようとする学生諸君が門をたたくことを望んでいます。
文学部
文学部は、秀でた基礎学力を身につけているとともに、これからの文学部での勉学についてプランと展望を持ち、意欲を持って広い意味での勉学に励む者を求めています。
教育学部
教育学部は、教育と心・人間・社会にかかわる多様な事象を対象とした諸科学を学ぶことで、教育や心理についての専門的知見、さらに、広い視野と異質なものへの理解、多面的・総合的な思考力と批判的判断力を育成する教育を行っています。 そこで、次のような人物を求めています。 ・教科の学習及び総合的な学習の時間などにおいて学習を深め、テーマを設定して探究活動を行い、卓越した学力を身につけ、成果をあげた者、あるいは、学校内外の活動で豊かな経験を積み、創造的な熟達を通して、深い洞察を得ている者 ・人間と社会、教育や心理について関心を持ち、論理的・批判的に思考し、問題を解決する能力とコミュニケーション能力を持つ者 ・将来、教育や心理にかかわる専門的識見を発揮して、社会に貢献する志を持つ者
法学部
法学部は、世界・国家・社会の様々な問題に対する強い関心を持ち、多方面にわたる基礎的な学力を備え、論理的思考力に優れた人材を求めています。
経済学部
経済学部は、総合的な学力とともに、長文読解力、問題発見力、論理的思考、柔軟な思考と創造性、そして高い自学自習の能力を持つ人材を求めています。
理学部
理学部は、自由な雰囲気の下で学問的価値を何よりも大切にし、自律的学修が推奨される学風のもとで、自然科学の基礎体系を深く習得し、それを創造的に展開する能力と、個々の知識を総合化し、新たな知的価値を創出する能力の養成を教育の目標にしています。そのために、理学科のみの1学科制の下で、緩やかな専門化を経て、研究の最前線へ向う教育を行っています。 理学部が望む学生像は、自由を尊重し、既成の権威や概念を無批判に受け入れない人、自ら考え、新しい知を吸収し創造する姿勢を持つ人、優れた科学的素養、論理的合理的思考力と語学能力を擁し、粘り強く問題解決を試みる人であり、この特色入試では、そのような人の中で、特に、数理科学の分野において極めて優れた才能を持つ人を求めています。

医学部医学科
京都大学は創立以来、自由の学風、闊達な対話を重視し、世界トップレベルの先端的学術研究を推進してきました。医学部医学科は、社会が大きく変革している現代においても、京都大学の学問環境で学び、研究することで、世界をリードできる人材、具体的には以下の要件を満たす人材を全国から広く求めます。 1. 医学・生命科学に深い関心を持ち、かつ真摯な姿勢、熱意を持って真理を探究できる将来の世界の医学をリードするような医学研究者としての資質・適性を持つ人材。 2. 1. 以外でも自然科学の少なくとも1領域において傑出した能力を有し、かつ医学研究者としての資質・適性を持つ人材も考慮します。 3. 本学が提供するMD-PhDコースへの進学を希望する人材。
医学部人間健康科学科
医学部人間健康科学科は、学問に対する探究心と人間に対する深い洞察力に加え、高い倫理観を持ち、より多くの人々に健康を届けることへの誇りと自覚を持った医療専門職のリーダーになり得る人材を求めています。
薬学部薬科学科
薬学部薬科学科では、創薬に関係する幅広い分野において、将来、研究者として国際的に活躍することのできる人材の育成を目指した教育を行っています。 このため、高校で学修すべき幅広い科目に対する基礎学力を有し、自ら目的を設定し挑戦できる行動力があり、特に創薬に関心と興味を持ち、薬学を学ぶ意欲のある積極的な学生の入学を希望しています。
工学部
工学部は、特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎学力を持つ人材を求めています。
農学部食料・環境経済学科
農学部食料・環境経済学科は、食料・環境・農業などの分野において、高度な専門知識を持って社会のリーダーとなるべき人材を求めています。

5. 募集人員・試験実施方式

学 部	学 科	専 攻	募集人員	試験実施方式
総合人間学部			5名	学力型 AO
文学部			10名	学力型 AO
教育学部			6名	学力型 AO
法学部			20名	後期日程
経済学部			25名	学力型 AO
理学部			5名	学力型 AO
医学部	医学科		5名	推薦
	人間健康科学科	看護学	10名	学力型 AO
		理学療法学	3名	
		作業療法学	3名	
薬学部	薬科学科		3名	学力型 AO
工学部	地球工学科		3名	推薦
	電気電子工学科		5名	
	情報学科		2名	
	工業化学科		若干名	
農学部	食料・環境経済学科		3名	学力型 AO

注：法学部を除き、選考の結果によっては合格者数が募集人員に満たない場合がありますが、その欠員分は一般入試（前期日程試験）の募集人員に加えます。

6. 選抜日程

学 部	学 科	出願期間	第1次選考 結果発表	第2次選考	第2次選考 合格発表
総合人間学部		11/2～6	11/30	12/23	※
文学部		12/16～21	2/3	2/5	※
教育学部		10/5～9	10/30	11/28,29	12/15
法学部		1/25～2/3	2/28	3/12	3/23
経済学部		12/16～21	2/3	2/5	※
理学部		10/5～9	10/30	11/28,29	12/15
医学部	医学科	11/2～6	11/30	12/22,23	1/13
	人間健康科学科	10/5～9	10/30	11/14,15	12/15
薬学部	薬科学科	10/5～9	10/30	11/28	12/15
工学部	地球工学科	11/2～6	11/30	12/24,25	1/13
	電気電子工学科		—	—	※
	情報学科		11/30	12/24,25	1/13
	工業化学科		11/30	—	※
農学部	食料・環境経済学科	12/16～21	2/3	2/5	※

注：法学部及び医学部医学科を除き、最終合格発表は2月10日、入学手続きは2月16日とします。

※については、第2次選考合格発表と最終合格発表が同じであることを示しています。

		出願期間 第1次選考結果発表 第2次選考 第2次選考結果発表 最終合格発表 入学手続き 下欄の数字は日付を表す					
		10月	11月	12月	1月	2月	3月
総合人間学部			2~6 30	23		10 16	
文学部				16~21		3 5 10 16	
教育学部		5~9 30	28 29	15		10 16	
法学部					25~3	28	12 23 25
経済学部				16~21		3 5 10 16	
理学部		5~9 30	28 29	15		10 16	
医学部	医学科		2~6 30	22 23	13	16	
	人間健康科学科	5~9 30	14 15	15		10 16	
薬学部		5~9 30	28	15		10 16	
工学部	地球工学科		2~6 30	24 25	13	10 16	
	電気電子工学科		2~6			10 16	
	情報学科		2~6 30	24 25	13	10 16	
	工業化学科		2~6 30			10 16	
農学部				16~21		3 5 10 16	

7. 出願資格、出願要件、提出書類、大学入試センター試験利用教科・科目名、選抜方法及び基準

【総合人間学部】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者										
出 願 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 本学総合人間学部での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者 2. 調査書の全体の評定平均値 4.3 以上の者 3. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者										
提 出 書 類	1. 調査書 2. 学業活動報告書 3. 学びの設計書										
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から 2、又は物理、化学、生物、地学から 2 ※2 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※3										
選抜方法及び基準	提出書類、能力測定考査、及び大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、調査書、学業活動報告書、及び学びの設計書により選考を行い、上位 50 名を上限として合格者を決定します。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、能力測定考査（英語、文系総合問題、理系総合問題）を行い、その成績、及び大学入試センター試験の成績により最終選考を行います。 能力測定考査においては、英語問題では、幅広い分野から出題した長文の文章を読ませ、英文の読解力や作文力を検査します。文系総合問題では広く文化・科学・思想・社会などから出題し、長文の読解力や文章力を検査します。理系総合問題では数Ⅲを含み、数理的思考力や論理的思考力を検査します。 能力測定考査の配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>英 語</td><td>文系総合問題</td><td>理系総合問題</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>300</td></tr></table> 大学入試センター試験においては基礎学力を問い、その得点の合計が 800 点満点中 85%以上であることを求めます。	試験の区分	英 語	文系総合問題	理系総合問題	合 計	配 点	100	100	100	300
試験の区分	英 語	文系総合問題	理系総合問題	合 計							
配 点	100	100	100	300							

※1 2科目受験者については、第 1 解答科目の成績を用います。

※2 「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から 2 科目を選択した場合、200 点満点を 100 点満点に換算して利用します。

※3 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

【文学部】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者
出 願 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 本学文学部での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者 2. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者
提 出 書 類	1. 調査書 2. 学業活動報告書 3. 学びの設計書
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 2 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ、数 B」 【理科】 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から 2 ※1 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※2
選抜方法及び基準	提出書類、大学入試センター試験の成績、論文試験、学びの設計書に関連する論述試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は大学入試センター試験の得点の合計が 900 点満点中 760 点以上の者を合格者としします。ただし、該当者が多数にのぼる場合には、成績上位の 30 名程度を合格者としします。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、論文試験、及び「学びの設計書」に関連する論述試験を行い、提出書類とあわせて総合評価により可否を判定します。

※1 基礎を付した科目から 2 科目を選択することに代え、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから 2 科目を選択することができます。その場合は、200 点満点を 100 点満点に換算して利用します。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

【教育学部】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者								
出 願 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 本学教育学部での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者 2. 調査書の全体の評定平均値 4.3 以上の者 3. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者								
提 出 書 類	1. 調査書 2. 学びの報告書 3. 学びの設計書								
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】国語 【数学】「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【地歴・公民】及び【理科】については、次のどちらかを選択する。 ・世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 2 及び 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から 2 ※1 ・世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※2 及び 物理、化学、生物、地学から 2 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※3								
選抜方法及び基準	提出書類、課題及び口頭試問によるパフォーマンス評価の成績、並びに大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。なお、パフォーマンス評価とは、知識やスキルを活用・応用・総合する力をみるために、学習の成果物やそれに関わる活動を評価する方法です。 第 1 次選考は、調査書、学びの報告書、及び学びの設計書により選考を行います。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、課題と口頭試問を行い、その成績と提出書類と総合して選考を行います。 ・課題では、読解力、論理的・批判的思考力、問題解決能力などについて評価します。 ・口頭試問では、探究心と洞察力、コミュニケーション能力などについて評価します。 第 2 次選考における配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>課 題</td><td>口頭試問</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>50</td><td>50</td><td>100</td></tr></table> 最終選考は、第 2 次選考に合格した者に対して、大学入試センター試験の得点の合計が 900 点満点中 80%以上の者を合格者とします。	試験の区分	課 題	口頭試問	合 計	配 点	50	50	100
試験の区分	課 題	口頭試問	合 計						
配 点	50	50	100						

※1 基礎を付した科目から2科目を選択することに代え、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから2科目を選択することができます。その場合は、200点満点を100点満点に換算して利用します。

※2 2科目受験者については、第1解答科目の成績を用います。

※3 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。英語は250点満点（筆記200点満点、リスニング50点満点）を200点満点に換算して利用します。

【法学部】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 28 年 3 月修了見込みの者 3. 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（平成 28 年 3 月 31 日までに修了見込みの者を含む。） 4. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した 在学教育施設の当該課程を修了した者及び平成 28 年 3 月 31 日までに修了見込みの者 5. 文部科学大臣が指定する専修学校の高等課程を文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び平成 28 年 3 月 31 日までに修了見込みの者 6. 文部科学大臣の指定した者（昭和 23 年文部省告示第 47 号―大学入学に関し、高等学校を卒業し た者と同等以上の学力があると認められる者の認定―） 7. 高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定（大検）に合格した者及び平成 28 年 3 月 31 日 までに合格見込みの者で、平成 28 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの 8. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業したと同等以上の学力があると認めた 者で、平成 28 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの																						
出 願 要 件	平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験した者																						
提 出 書 類	調査書（全体の評定平均値に基づいて、志願者の学年における順位を示してください。）																						
大学入試セン ター試験利用 教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 2 （世界史 B、日本史 B のうち少なくとも 1 科目を選択すること。） 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から 2 ※1 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※2																						
選抜方法及び 基準	提出書類、大学入試センター試験、及び小論文試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、大学入試センター試験及び調査書の成績により選考を行います。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、大学入試センター試験及び小論文試験の成績によ り選考を行います。 小論文試験は、日本語と英語の文章を題材に、読解力、論理的思考力、表現力などについて評価しま す。 大学入試センター試験、小論文の配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>国 語</td><td>地歴・公民</td><td>数 学</td><td>理 科</td><td>外国語</td><td>合 計</td></tr><tr><td>センター試験</td><td>60(200)</td><td>60(200)</td><td>60(200)</td><td>30(100)</td><td>60(200)</td><td>270(900)</td></tr></table> <table><tr><td>試験の区分</td><td>小 論 文</td><td>センター試験</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>100</td><td>270</td><td>370</td></tr></table>	試験の区分	国 語	地歴・公民	数 学	理 科	外国語	合 計	センター試験	60(200)	60(200)	60(200)	30(100)	60(200)	270(900)	試験の区分	小 論 文	センター試験	合 計	配 点	100	270	370
試験の区分	国 語	地歴・公民	数 学	理 科	外国語	合 計																	
センター試験	60(200)	60(200)	60(200)	30(100)	60(200)	270(900)																	
試験の区分	小 論 文	センター試験	合 計																				
配 点	100	270	370																				

※1 基礎を付した科目から 2 科目を選択することに代え、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから 2 科目を選択することができます。その場合は、200 点満点を 100 点満点に換算して利用します。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

【経済学部】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を卒業した者及び平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者及び平成 28 年 3 月修了見込みの者 3. 外国において、学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの（平成 28 年 3 月 31 日までに修了見込みの者を含む。） 4. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した 在学教育施設の当該課程を修了した者及び平成 28 年 3 月 31 日までに修了見込みの者 5. 文部科学大臣が指定する専修学校の高等課程を文部科学大臣が定める日以降に修了した者及び平成 28 年 3 月 31 日までに修了見込みの者 6. 文部科学大臣の指定した者（昭和 23 年文部省告示第 47 号一大学入学に関し、高等学校を卒業し た者と同等以上の学力があると認められる者の認定一） 7. 高等学校卒業程度認定試験又は大学入学資格検定（大検）に合格した者及び平成 28 年 3 月 31 日 までに合格見込みの者で、平成 28 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの 8. 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業したと同等以上の学力があると認めた 者で、平成 28 年 3 月 31 日までに 18 歳に達するもの																				
出 願 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 本学経済学部での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者 2. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者																				
提 出 書 類	1. 調査書 2. 学業活動報告書 3. 学びの設計書																				
大学入試セン ター試験利用 教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 2 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から 2 ※1 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※2																				
選抜方法及び 基準	提出書類、大学入試センター試験、及び論文試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、大学入学センター試験の得点（ただし、英語は 250 点満点を 200 点満点に換算）の 合計が 900 点満点中 630 点以上の者のうち上位 80 名を上限として合格者を決定します。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、学業活動報告書、学びの設計書、大学入試センタ ー試験、及び論文試験の成績により選考を行います。 論文試験では、出題は 1 問とし、長文読解力、問題発見力、論理的思考、柔軟な思考と創造性などに ついて評価します。 第 2 次選考におけるセンター試験の配点 <table><tr><td>試験の区分</td><td>国 語</td><td>数 学</td><td>外国語</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>100</td><td>100</td><td>200</td><td>400</td></tr></table> 第 2 次選考の配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>学業活動報告書 学びの設計書</td><td>センター試験</td><td>論 文</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>100</td><td>400</td><td>500</td><td>1000</td></tr></table>	試験の区分	国 語	数 学	外国語	合 計	配 点	100	100	200	400	試験の区分	学業活動報告書 学びの設計書	センター試験	論 文	合 計	配 点	100	400	500	1000
試験の区分	国 語	数 学	外国語	合 計																	
配 点	100	100	200	400																	
試験の区分	学業活動報告書 学びの設計書	センター試験	論 文	合 計																	
配 点	100	400	500	1000																	

※1 基礎を付した科目から 2 科目を選択することに代え、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうちから 2 科目を選択することができます。その場合は、200 点満点を 100 点満点に換算して利用します。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

【理学部】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 26 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者								
出 願 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 理学部での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者 2. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者								
提 出 書 類	1. 調査書 2. 学業活動報告書 3. 学びの報告書								
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理、化学、生物、地学から 2 【外国語】 英語 ※2								
選抜方法及び基準	提出書類、数学に関する能力測定考査、口頭試問、及び大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、調査書、学業活動報告書、及び学びの報告書により選考を行います。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、数学に関する能力測定考査、口頭試問の成績により選考を行います。 数学に関する能力測定考査では、数理解解力、問題解決力、論理的思考力、明解な説明能力などについて評価します。 口頭試問では、意欲、適性などについて評価します。 数学に関する能力測定考査、及び口頭試問の配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>数 学</td><td>口頭試問</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>50</td><td>50</td><td>100</td></tr></table> 最終選考は、第 2 次選考に合格した者に対して、大学入試センター試験の得点の合計が 900 点満点中 630 点以上の者を合格者とします。	試験の区分	数 学	口頭試問	合 計	配 点	50	50	100
試験の区分	数 学	口頭試問	合 計						
配 点	50	50	100						

※1 2 科目受験者については、第 1 解答科目の成績を用います。

※2 リスニングテストを含みます。250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

【医学部医学科】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 国際科学オリンピック（数学、物理、化学、生物）日本代表で世界大会に出場した平成 29 年 3 月卒業見込みの者 3. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者								
推 薦 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 人格・識見ともに特段に優れており、学校長が責任を持って推薦する者 2. 調査書の評定平均値 4.7 以上の者 3. TOEFL-iBT スコア 83 点以上の者 4. 医学部医学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者								
推 薦 人 員	各学校長が推薦できる人数は、1 名とします。 ただし、国際科学オリンピック（数学、物理、化学、生物）日本代表で世界大会に出場した平成 29 年 3 月卒業見込みの者は別枠で 1 名推薦可能とします。								
提 出 書 類	1. 調査書 2. 推薦書 3. 学びの設計書 4. TOEFL-iBT の受験者成績書（Examinee Score Report）の原本（コピー不可） 5. 特色事項（各種コンクール、科学オリンピック等）に関する資料 *平成 29 年 3 月卒業見込の者は提出必須								
選抜方法及び基準	提出書類、小論文試験、及び面接試験の成績を総合して判定します。 第 1 次選考は、提出書類の内容により選考します。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、小論文試験、及び面接試験の成績により選考します。 小論文試験では、論理的思考力、文章構成力などについて評価します。なお、理科（物理、化学、生物のうち 2 科目）の基礎知識を必要とします。 面接試験では、京都大学が望む医学研究者、医師としての適性、論理的思考力などについて評価します。 なお、小論文試験、及び面接試験の配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>小 論 文</td><td>面 接</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>160</td><td>240</td><td>400</td></tr></table>	試験の区分	小 論 文	面 接	合 計	配 点	160	240	400
試験の区分	小 論 文	面 接	合 計						
配 点	160	240	400						
備 考	特色入試に合格し、入学したもので本学が提供する MD-PhD コースへ進学するものには奨学金制度を設けております。								

【医学部人間健康科学科】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者
出 願 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 医学部人間健康科学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者 2. 調査書の全体の評定平均値 4.3 以上の者 3. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者
提 出 書 類	1. 調査書 2. 学業活動報告書 3. 学びの設計書
大学入試センター試験利用教科・科目名	看護学専攻 【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 生物（必ず選択すること）、及び物理、化学から 1 【外国語】 英語 ※2 理学療法学専攻 【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理、化学、生物から 2 【外国語】 英語 ※2 作業療法学専攻 【国語】 国語 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、 「倫理、政治・経済」から 1 又は 2 } 合わせて 3 科目選択 ※1 【理科】 物理、化学、生物から 1 又は 2 【外国語】 英語 ※2
選抜方法及び基準	提出書類、論文試験、面接試験、大学入試センター試験の成績を総合して判定します。 第 1 次選考は、調査書、学業活動報告書、及び学びの設計書により選考を行います。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、論文試験、及び面接試験の成績により選考を行います。 論文試験では、学問に対する探究心と人間に対する深い洞察力などについて評価します。 面接試験では、医療従事者・医療専門職のリーダーとしての適性・人間性などについて評価します。 最終選考は、第 2 次選考に合格した者に対して、大学入試センター試験の得点の合計が 950 点満点中 760 点以上の者を合格者としています。

**選抜方法及び
基準**

大学入試センター試験、論文試験、及び面接試験の配点は、次のとおりとします。

看護学専攻及び理学療法学専攻

試験の区分	国 語	地歴・公民	数 学	理 科	外国語 (英語)	合 計
センター試験	200	100	200	200	250	950

試験の区分	論 文	面 接	合 計
配 点	100	100	200

作業療法学専攻

試験の区分	国 語	数 学	地歴・公民	理 科	外国語 (英語)	合 計
センター試験	200	200	300		250	950

試験の区分	論 文	面 接	合 計
配 点	100	100	200

※1 2科目受験者については、第1解答科目の成績を用います。

※2 リスニングテストを含み、250点満点（筆記200点満点、リスニング50点満点）とします。リスニング免除者は筆記200点満点を250点満点に換算して利用します。

【薬学部薬科学科】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者
出 願 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 本学薬学部薬科学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者 2. 調査書の全体の評定平均値 4.3 以上の者 3. TOEFL-iBT スコア 75 点以上の者 4. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者
提 出 書 類	1. 調査書 2. 学業活動報告書 3. 学びの設計書 4. TOEFL-iBT の受験者成績書 (Examinee Score Report) の原本 (コピー不可)
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理、化学、生物から 2 【外国語】 英語 ※2
選抜方法及び基準	提出書類、論文試験、面接試験、及び大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、調査書、学業活動報告書、学びの設計書、及び TOEFL-iBT の成績により選考を行います。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、論文試験、及び面接試験の成績により選考を行います。 論文試験は、英語の文章を読んで日本語で論述する形式です。長文の英文について内容を正確に読み取り、分析した上で論理的に自分の意見を論述する能力などについて評価します。 面接試験は、薬学に対する意欲、目的意識、視野の広さ、適性などについて評価します。 最終選考は、第 2 次選考に合格した者に対して、大学入試センターの得点の合計が 900 点満点中 740 点以上の者を合格者としてします。

※1 2 科目受験者については、第 1 解答科目の成績を用います。

※2 リスニングテストを含みます。250 点満点 (筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点) を 200 点満点に換算して利用します。

【工学部地球工学科】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 高等専門学校第 3 年次を平成 28 年 3 月修了見込みの者 3. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者								
推 薦 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 人格・識見ともに特段に優れている者 2. 特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎学力を有する者 3. 国際的な科学競技会（国際数学オリンピック、国際物理オリンピック、国際化学オリンピック、国際生物学オリンピック、国際地学オリンピック、国際情報オリンピックなど）に出場した者、又は国内大会における成績優秀者 4. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者 5. 工学部地球工学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確約する者								
推 薦 人 員	各学校長が推薦できる人数は、学科で 1 名とします。								
提 出 書 類	1. 調査書 2. 推薦書 3. 学びの設計書 4. 顕著な活動実績の概要								
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理（必ず選択すること）、及び化学、生物から 1 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※2								
選抜方法及び基準	提出書類、口頭試問、面接試験、及び大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、調査書、推薦書、学びの設計書、及び顕著な活動実績の概要により選考を行います。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、口頭試問及び面接試験により選考を行います。 口頭試問では、基礎学力と特筆すべき能力などについて評価します。 面接試験では、人格及び識見などについて評価します。 口頭試問、及び面接試験の配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>口頭試問</td><td>面 接</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>500</td><td>500</td><td>1000</td></tr></table> 最終選考は、提出書類、口頭試問、面接試験、及び大学入試センター試験の得点を総合して合格者を決定します。大学センター試験においては、その得点の合計が 900 点満点中 80%以上であることが必要です。	試験の区分	口頭試問	面 接	合 計	配 点	500	500	1000
試験の区分	口頭試問	面 接	合 計						
配 点	500	500	1000						

※1 2 科目受験者については、第 1 解答科目の成績を用います。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

【工学部電気電子工学科】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 高等専門学校第 3 年次を平成 28 年 3 月修了見込みの者 3. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者
推 薦 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 人格・識見ともに特段に優れている者 2. 特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎学力を有する者 3. 授業科目の一環として実施した課題研究や科学に関する課外活動において顕著な実績をあげた者 4. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者 5. 工学部電気電子工学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者
推 薦 人 員	各学校長が推薦できる人数は、学科で 1 名とします。
出 願 書 類	1. 調査書 2. 推薦書 3. 学びの設計書 4. 顕著な活動実績の概要
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理（必ず選択すること）、及び化学、生物から 1 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※2
選抜方法及び基準	提出書類、及び大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。 提出された書類の審査に重点を置きます。提出書類を A・B・C・D の 4 段階で評価し、A 評価の者の内、大学入試センター試験の合計得点が 900 点満点中 80%を越えた者を合格者とします。

※1 2 科目受験者については、第 1 解答科目の成績を用います。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

【工学部情報学科】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 高等専門学校第 3 年次を平成 28 年 3 月修了見込みの者 3. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者																				
推 薦 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 人格・識見ともに特段に優れている者 2. 特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎学力を有する者 3. 国際情報オリンピック、国際数学オリンピック、国際物理オリンピックのいずれかにおいて高等学校在学中に日本代表選手候補となった者※ ※ 日本情報オリンピック本選において合格し（A ランク）、春合宿に参加した者 日本数学オリンピック本選において AA ランクとして選ばれ、春合宿に参加した者 全国物理コンテスト「物理チャレンジ」においてチャレンジ・ファイナルに参加した者 4. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者 5. 工学部情報学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確約する者																				
推 薦 人 員	各学校長が推薦できる人数は、学科で 1 名とします。																				
提 出 書 類	1. 調査書 2. 推薦書 3. 学びの設計書 4. 顕著な活動実績の概要																				
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理（必ず選択すること）、及び化学、生物から 1 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※2																				
選抜方法及び基準	提出書類、口頭試問、及び大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、調査書、推薦書、学びの設計書、及び顕著な活動実績の概要により選考を行います。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して口頭試問により選考を行います。 口頭試問では、提出書類の記載事項の確認、科学オリンピック出場科目について高等学校の発展的内容に基づいた試問、英語による自己紹介などにより評価します。口頭試問の配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>口頭試問</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>200</td><td>200</td></tr></table> 大学入試センター試験の成績は下表の点数に換算し、第 2 次選考に合格した者のうち得点の合計が 1000 点満点中 850 点以上の者を合格者とします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>国 語</td><td>地歴・公民</td><td>数 学</td><td>理 科</td><td>外国語</td><td>合 計</td></tr><tr><td>センター試験</td><td>150</td><td>100</td><td>250</td><td>250</td><td>250</td><td>1000</td></tr></table>	試験の区分	口頭試問	合 計	配 点	200	200	試験の区分	国 語	地歴・公民	数 学	理 科	外国語	合 計	センター試験	150	100	250	250	250	1000
試験の区分	口頭試問	合 計																			
配 点	200	200																			
試験の区分	国 語	地歴・公民	数 学	理 科	外国語	合 計															
センター試験	150	100	250	250	250	1000															

※1 2 科目受験者については、第 1 解答科目の成績を用います。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）として利用します。

【工学部工業化学科】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みの者 2. 高等専門学校第 3 年次を平成 28 年 3 月修了見込みの者 3. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 27 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者
推 薦 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 人格・識見ともに特段に優れている者 2. 特筆すべき能力、リーダーシップと高い基礎学力を有する者 3. 国際化学オリンピック、国際数学オリンピック、国際物理オリンピック、国際生物学オリンピックのいずれかで銅メダル以上の成績を収めている者 4. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者 5. 工学部工業化学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確約する者
推 薦 人 員	各学校長が推薦できる人数は、学科で 1 名とします。
提 出 書 類	1. 調査書 2. 推薦書 3. 学びの設計書 4. 顕著な活動実績の概要
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理（必ず選択すること）、及び化学、生物から 1 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※2
選抜方法及び基準	提出書類、及び大学入試センター試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、調査書、推薦書、学びの設計書、及び顕著な活動実績の概要に記載された内容により選考を行います。なお、国際化学オリンピック、国際数学オリンピック、国際物理オリンピック、国際生物学オリンピックのいずれかで銅メダル以上の成績を収めている者を第 1 次選考合格とします。 最終選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、大学入試センター試験の指定した教科・科目で 80%以上の得点がある者を合格者とします。ただし、1 科目でも 80%に達しない科目がある場合は、不合格にすることがあります。

※1 2 科目受験者については、第 1 解答科目の成績を用います。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。

【農学部食料・環境経済学科】

出 願 資 格	次のいずれかに該当することが必要です。 1. 高等学校又は中等教育学校を平成 24 年 4 月から平成 28 年 3 月までに卒業又は卒業見込みの者 2. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 24 年 4 月から平成 28 年 3 月までに修了又は修了見込みの者						
出 願 要 件	次のすべての要件を満たすこととします。 1. 農学部食料・環境経済学科での学びを強く志望し、合格した場合は必ず入学することを確認する者 2. 平成 28 年度大学入試センター試験において、指定した教科・科目を受験する者						
提 出 書 類	1. 調査書 2. 学業活動報告書 3. 学びの設計書						
大学入試センター試験利用教科・科目名	【国語】 国語 【地歴・公民】 世界史 B、日本史 B、地理 B、「倫理、政治・経済」から 1 ※1 【数学】 「数Ⅰ・数 A」、「数Ⅱ・数 B」 【理科】 物理、化学、生物、地学から 2 【外国語】 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から 1 ※2						
選抜方法及び基準	提出書類、大学入試センター試験、及び小論文試験の成績を総合して合格者を決定します。 第 1 次選考は、大学入試センター試験の得点の合計が 900 点満点中 720 点以上の者の中から、提出書類の内容、及び大学入試センター試験の成績により選考を行います。 第 2 次選考は、第 1 次選考に合格した者に対して、小論文試験の成績により選考を行います。 小論文試験は、英語の文章を読んで日本語で論述する形式です。長文の英文について内容を正確に読み取り分析した上で、論理的に自分の意見を論述する能力などについて評価します。 小論文試験の配点は、次のとおりとします。 <table><tr><td>試験の区分</td><td>小 論 文</td><td>合 計</td></tr><tr><td>配 点</td><td>200</td><td>200</td></tr></table> (英文課題を 2 つ、それぞれ 100 点)	試験の区分	小 論 文	合 計	配 点	200	200
試験の区分	小 論 文	合 計					
配 点	200	200					

※1 2 科目受験者については、第 1 解答科目の成績を用います。

※2 『英語』を利用する場合は、リスニングテストを含みます。『英語』は 250 点満点（筆記 200 点満点、リスニング 50 点満点）を 200 点満点に換算して利用します。



京都大学

KYOTO UNIVERSITY

京都大学特色入試に関するお問い合わせは、
下記アドレス宛メールにてお寄せください。
お問い合わせに対して個別に回答できませんが、
本学ホームページに「京都大学特色入試 FAQ」として
まとめて回答いたします。

アドレス : tokushoku-nyushi@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

京都大学学務部入試企画課

TEL (075) 753-2521

Home page <http://kyoto-u.ac.jp/ja/visitor/admissions>